

---

## 15. 「やまさかコミュニティ」の高齢者居住支援活動

やまさか暮らし研究会  
(福岡県北九州市)

---

### 1. 活動の背景と目的

丸山・大谷地区(北九州市八幡東区)は、やまさかのまちです。北原白秋が「山へ山へと八幡はのぼる はがね積むよに家がたつ」と詠ったように、官営八幡製鉄所の立地以降の急激な人口増加の中で、もともと平地の少なかった八幡では住宅が山裾をかけ上り、たくさんの斜面住宅地ができあがりました。しかしながら、産業構造の転換などの影響で若年世帯の流出が進み、往時の活気は薄れ、高齢化の進行や空家の増加が深刻な問題となっています。斜面地は平地と違って、自然環境や眺望が豊かな反面、階段道や坂道の上り下りはきつく、特に、高齢者や障害者の方には大きな負担となっています。このため、丸山・大谷地区では平成7年度より市のモデル事業として、みんなが安心して快適に生活できる「やまさかづくり」を目指して、道路や住宅などを改善して利便性を高めるための住環境整備計画づくりが進められています。

一方、よりよい「やまさかづくり」のためには、まちで暮らす住民自らがやまさかの住みごこちを高める工夫をしていくことが大切です。地元まちづくり協議会の会合の席で、ある委員から「階段道の途中にバンコ(ベンチ)を置けばお年寄りが休む場所ができていいんじゃないか」という意見が出ました。でも、資金がありません。このアイデアをなんとか実現させるため、住環境整備計画づくりの取り組みを通じて意気投合した地元住民・NPO・大学・コンサルタントなどの有志によって、「やまさか暮らし研究会」を組織し、企画を練ることになりました。

バンコづくりをきっかけに始まった議論は、継続性のある高齢者・障害者の生活支援活動のあり方へと発展し、「高齢化の進む斜面住宅地の居住環境の向上を目指し、地域コミュニティのネットワークを生かした高齢者や身障者の居住支援の体制づくりと実践活動を行う」という活動の方向性がまとまりました。幸いに、この助成金をいただくことができ、次のような目標をもって本年度の活動に取り組みました。

#### ● 「やまさかバンコ」の製作・設置

長い階段道の休憩スペースづくりとして、バンコ(ベンチ)を製作し、設置する。まちのイベントとしてみんなで取り組めるように工夫し、設置後もみんなが大切に使う気持ちを育む。

#### ● 「あんしんファイル(地域住情報ファイル)」の作成

高齢者や身障者に対して地域でできる支援活動を考える基礎資料として、それぞれの健康や住宅などの様子をうかがって情報をファイル化する。

#### ● 「あんしんメニュー(支援メニュー)」の立案

あんしんファイルをもとに、地域住民が取り組める高齢者や身障者の支援活動のアイデアをまとめ、実現化を検討する。

#### ● 「あんしんマップ(支援活動ルートマップ)」の作成

支援活動を行う際に車をどこに止めてどの階段道を通ればいいのかなどについて、あんし

んメニューに応じた活動拠点と活動ルートを示したマップを作成する。

## II. 活動の内容

一年間を通じて活動の中心は「やまさかバンコ」づくりでした。まず、バンコの材料選び。当初は山村の間伐材か製材後の端材を購入する予定でしたが、地区に林をお持ちの浜崎さんから杉を分けていただけることになり、地元の材料を使ってのバンコづくりがスタート。梅雨が明け夏祭りが終わるのを待ち、8月下旬から研究会メンバーによる製作予行演習を行いました。木こり役は地区の経験者が務め、切り倒して2mほどに寸断した木材をみんなで50mほど下の車道まで運び、車で製材所に搬入し半丸太に加工しました。製材所から戻った材木の皮をむいてしばらく乾燥させ、9月下旬、地元の大工さんのアドバイスを受けてみんなで切ったり削ったり。長持ちしメンテナンスしやすいように部材は最小限の加工にとどめ、奮闘の後に試作品を組み上げました。そして、予行演習の反省をふまえ、10、11月にもう一度、伐採から組立までの本作業を行いました。



バンコの木材を地元の山より切り出し



ワークショップ

バンコを仕上げる色塗りの工程は、ワークショップを企画し、地区住民や地元小学校の子供たちが集まってにぎやかに進みました。ワークショップは、「バンコを学ぼう」「バンコを描こう」「バンコを作ろう」の3回で構成し、大学生やコンサルタントのメンバーがファシリテーター役を務め、バンコの役割の理解から、絵のデザイン、色塗り作業を6グループに分かれて行いました。子供たちのグループの自由な発想に大人たちのグループが引っ張られ、「ぼうけんバンコ」や「ふれあいバンコ」など豊かなイメージをもった6台のバンコが完成しました。バンコの色塗りは子供たちに大受けで、3月には小学校独自のワークショップが行われ、さらに6台のバンコができました。

バンコの設置にあたっては、地元町内会から要望のあった候補地をもとに、事務局で利用のしやすさや安全性などを点検し、関係機関と協議を進めました。結局、公道上は9ヶ所に絞り、1月末に市と警察の許可が得られ、4月に取り付け作業を行いました。また、道路沿いの民有地へのバンコ設置の要望もあり、今後は公共性のチェックや地権者の同意を得ながら設置場所を拡大していきたいと考えています。バンコの管理については、地元自治会が責任をもち、小学校の福祉クラブの子供たちが点検活動を行うことになっています。

一方、事務局ではバンコづくりの作業の合間を縫って、「あんしんファイル（地域住情報ファイル）づくり」「あんしんメニュー（支援メニュー）づくり」「あんしんマップ（支援

活動ルートマップ) づくり」の検討を行いました。成果をあげるまでには至っていません。

「あんしんファイル」については、10月に高齢者世帯の数名へ生活の様子についての聞き取り調査を行い、これをもとにファイルのイメージを検討しました。民生委員やボランティア団体などの活動に有効な情報項目の整理、プライバシーを侵害しないようなファイル管理の方法、ファイル自体の活用方法に頭を悩ませながら3月にファイルのフォーマットをまとめ、現在、情報収集の進め方について検討を行っています。「あんしんメニュー(支援メニュー)づくり」については、空家を利用したボランティアの活動拠点や託老施設づくり、高齢者・障害者との交流バスハイクの企画などのアイデアがあがり、引き続き具体化を検討しています。「あんしんマップ(支援活動ルートマップ)づくり」については、あんしんファイルの中に地図情報を織り込む形で整理しようとしています。

これらの研究会活動の経過は、機関紙「やまさか暮らし研究会ニュース」にまとめ、自治会を通じて地区の全世帯に配布しています。



バンコに絵を描く

### III. 活動の効果及び今後の課題

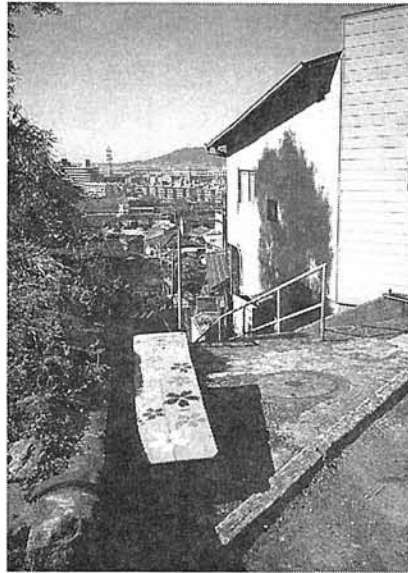
9つのバンコは、やまさかを行き来する人々によく利用され、みんなの評判は上々です。落書きひとつされず、とても大切にされています。あるバンコには、雨露を拭くための雑巾を誰かが置いています。やまさかにある材料を使い、やまさかを愛するみんなで作ったバンコは、ついこの間置いたとは思えないほどやまさかの風景に馴染んでいます。

階段道にバンコを設置する活動に取り組むことが決まったとき、私たちには期待と不安の両方がありました。不安なことは、丸山・大谷地区の道路や階段道は狭いため、バンコをたくさんは置けないのではないか。また、置けるスペースがあっても設置許可が出ないのではないかということでした(北九州市では過去に例がありません)。逆に、期待したことは、もしかしたら「道にバンコを置く場所がなければ、私の家の軒先に置いてもいいよ」という声があがるのではないかということでした。初めのうちはどちらもはかばかしくありませんでしたが、暮れ近くになって行政の理解が得られ、年明けに9ヶ所の設置が認められました。そして、バンコが実際に設置されて利用が始まると、地域の人たちから敷地提供の声があがりはじめました。民有地への設置はまだですが、これから「バンコの里親」がだんだんと増えることでしょう。さらに言えば、バンコの里親を通じて、個人の宅地に公共性を帯びた空間が増え、また、マナーを守ってそれを利用できる人が増えることが、住

み心地のよいまちをつくっていくのではないかと考えています。

本年度の活動は、当初の目標を全て達成するには至りませんでした。「やまさかバンク」は予想以上の成果を得ましたが、「あんしんファイル」「あんしんメニュー」「あんしんマップ」はアイデアは出ましたが、具体的なしくみづくりにはまだまだ不十分です。積み残した課題は、今後も継続して取り組みを進めていきます。

最後になりましたが、足腰の弱い私たちの組織のスタートを財政面からご支援いただきましたハウジングアンドコミュニティ財団に深く御礼申し上げます。また、本活動にご協力いただきました北九州市の行政の皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。



バンク